

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171600352		
法人名	特定非営利活動法人瑠泉会太陽		
事業所名	瑞浪グループホーム太陽		
所在地	岐阜県瑞浪市西小田4丁目69番地 (電話) 0572-66-4733		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年2月21日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】 (平成 20 年 12 月 112 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	24,200~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 12 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名
要介護3	4 名	要介護4	5 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.7 歳	最低 77 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団梅幸会ときわぎ診療所
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の中心地部から少し離れ、国道から西に1本入った閑静な新興住宅地の一角で、周囲は神社や公園、喫茶店、民家があり、緑豊かな環境にあるホームである。母体はNPO法人で5部門の介護サービス事業を提供してしている。理事長は医療分野と福祉分野の両面から、連携の取れた介護を提供し、医療依存度の高い利用者・家族も安心して生活できる場として受け入れしている。なっている。理事長の目指すグループホームの在り方を職員も理解し、充実したケアの実践が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価での主な改善課題であった運営推進会議の開催回数は年に2回から3回として、地域の自治会長にも参加を呼びかけて前向きに取り組み改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価は職員が勤務時間を利用して自己評価の項目を話し合い、理事長と管理者でまとめている。介護サービスの見直しや、外部評価の意義を再度確認してケアの実践に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーである自治会長や民生委員等を中心にして地域交流の機会を設けた取り組みや外部評価の報告、防災訓練の提案がされ、討議し、ホームの運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族からの意見は、紙面に残して、管理者に報告している。その後は面会して家族と意見交換を行い、双方が納得して利用者のためにより良いケアを目指している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	毎年、中学生や高校生を受け入れ、紅葉狩りに同行してもらったり、演奏会を開催するなど貴重な職場体験や中学生の福祉学習の場となっている。運営推進会議に町内会長が参加するようになり、地域交流をさらに深めようとしている。地元の利用者がほとんどで家族がいつも日常的に来訪し、ホームの一員のようなものである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個別的な介護を中心とし家庭的な雰囲気の中で可能な限り自主的な生活づくりを支援していく」「普通の暮らしができるように最大限に援助を行う」「可能な限り、在宅復帰に取り組む」の理念を掲げ、地域住民と共に安心して暮らせる街作りを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が社訓「その人らしく」「清潔」「控え目」「健康的」「機能的」の「日常5心」を理念とともに、毎日唱和し、共有してケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長が運営推進会議に出席し、互いに行事や祭りに参加を呼びかけ、民生委員を中心に地域の人と情報交換をしたりして地域交流を進めようとしている。地元の中学生や高校生の体験学習も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員が勤務時間を利用して、自己評価を話し合い、管理者と理事長がまとめている。評価を理解し、改善課題をミーティングで取り上げ、サービスの質の向上に結び付けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において防災訓練を検討し、計画して、利用者とともに実践に移している。会議を地域交流に活用し、外部評価やホームが抱えている改善課題を議題として、討議し、サービスの質の向上につなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは連携が取れ、市がグループホームに求めることや今後の展望など行政的な面で意思疎通を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	太陽会報を年に数回発行して、利用者の日頃の様子やある日の献立・行事・外出等をカラー付きの写真」・行事・外出時の様子を報告している。家族がよく来訪するため、職員を交えて日々の心身の様子を個々の利用者ごとに話している。	○	重要事項・契約書のついて若干字句の見直しが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に意見交換を行っている。また、介護計画に意見欄を設けており、介護計画の確認・承認時に意見を聞く体制があり、経営者兼理事長が即運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は地元や近隣市の在住で、今のところ、離職はない。法人内の異動はあるものの、法人内の介護サービス事業所の交流会や、職員研修を通じて、利用者とのなじみの関係が構築している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりにあった研修を受ける機会は確保され、法人内の交流研修や日々のケアの中で理事長自ら、現場できめ細かく教育して働きながらの学ぶ体制ができ職員の研修意欲が高く、研修内容は皆で共有して資料・参考本など豊富にある。資格修得を支援して、給料に反映している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会には加入していないが、法人内の他市のホームとは常時情報交換を図っている。また、管理者は、出身の福祉系大学の教授と相談しながら、サービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前より家族の相談にのったり、一時預かりをして、地元のニーズに応じている。また、利用者の情報は具体的かつ詳細の取っている。また状態に合わせて、理事長がシフトの見直しをして配慮している。利用者の気持ちや思いを大切に、利用者の生活リズムでなじめるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いを大切に、日常生活の中で持ちつ持たれつ関係を構築し、互いの気持ちを言葉にして伝えあうことを大事にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・表情・行動から、利用者の思いや意向・真意の把握に努めている。情報は職員間で共有を図り、きちんと記録に残してある。アセスメントの要点がきちんと整理されケアの実践に活かされている。	○	きちんと記録されているが、過去・現在・未来とつなげて読み取ることができるよう記録としての一元化が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を聞き、日常生活動作や身体障害・疾患を踏まえて、十分に話し合い状態に応じた介護計画を作成している。また、家族の介護感・介護力・介護方法も参考にしながら作成し、利用者の生活の質を高めるような内容にしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は月1回のミーティングで評価している。介護計画のチェックポイントが要点ごとにまとめ、見やすい工夫がしてあり、日常ケアの見直しや介護に活かされている。介護計画に対しての家族の意見・要望は意見欄に記入し、署名とともに捺印してあり、意見に対する対応内容もきちんと記録されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	廊下の片端にストレッチャーが、いつでも利用できるように置いてある。「ホームの思い」を利用者に伝えるために洗面所や廊下に貼っており、一人ひとりの利用者の命に正面から向き合い、家族や利用者の中の広いニーズに柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、家族により定期的に通院している。ホームの協力医は月2回の定期的な往診をして利用者の健康を管理している。歯科医師の往診や歯科衛生士の訪問で、口腔ケアも管理している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の希望でやむを得ず死の直前まで対応するケースもある。理事長が看護師であり、常時ホーム内にいて連絡や相談体制ができ、終末期ケアマニュアルも作られて、職員も安心だが、ホーム本来の運営とはずれているために、基本的には、看取りは行わない方向である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保・個人情報の保護は職員間で意識して取り組み、言葉かけや書類の扱いには十分気をつけている。	○	プライバシーの確保の観点からノート形式の面会記録はカード式への改善が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思い思いの居場所があり、気の合った仲間と昔話などの会話を楽しんだりしている。1日の主な流れはあるが、利用者のペースや希望を大切にしながら、暖かく見守り、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師の職員が2人おり、柔らかめのご飯や飲み込みやすい副食など工夫して食べやすくしてあり、食事が利用者の楽しみとなっている。嚥下困難で経口摂取ができなかった利用者が、職員の言葉かけでお粥をゆっくりとおいしそうに、とてもよい表情で食べていた光景はホームの取り組みの良さが表れていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回の入浴日があり、浴室は広くゆったりとした空間である。将来には機械浴が出来るようにと計画している。また、おむつ使用者には毎日の陰部清拭がケアされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの特技や知識を活かして声かけや話題を引き出している。干し柿づくりや地元の食材を使用したおやつづくり等を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	介護度が高く、移動が歩行器や車いすの人が9名中6名で、頻繁な外出は難しいが、大きなウッドデッキが南面に広がり、手軽にいつでも外気浴が出来る。また、近くの道の駅や紅葉狩り、山岡のおばあちゃん市などへ出かける機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないで開放している。ウッドデッキへの出入りは自由である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策としては、医療ニーズの高い人の為に簡単に栄養が補給できる食品や紙パンツが備蓄してある。非常口は建物の両サイドにあり、よく整備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定、食事摂取量、水分摂取量などきめ細かく記録し、ケアに活かし、健康管理を行っている。糖尿病の利用者にも食事量やインシュリンの管理も行い、家族からも、感謝の言葉がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木をふんだんに使った共同空間は広く、太い大黒柱は利用者の心を落ち着かせている。廊下・食堂・ウッドデッキには自然採光を取り込み、遮光用の麻でできたカーテンの色も安心を醸し出している。廊下には、利用者の作品や利用者の家族によるパッチワークの大きな作品が2か所にタペストリーとして飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には造り付けの大型のクローゼットが設置しており、職員の腰痛防止策として電動ベッドが全室にレンタルしてある。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。